

板ガラスの標準施工

複層ガラスの標準施工法

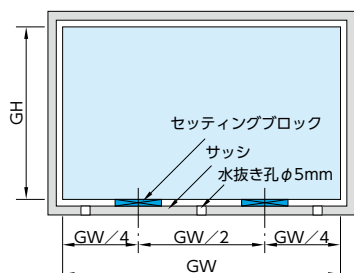
- ①複層ガラスの性能を十分に確保するため、断熱性と気密性のすぐれたサッシ (JIS A 4706サッシ) をご使用ください。
- ②可動サッシをはめ込む場合、開閉による衝撃、ねじれなどの影響を複層ガラスに与えないようにご注意ください。
- ③シーリング材は、JIS A 5758に規定される良質のシリコン系シーリング材 (無酢酸タイプ) を推奨します。ポリイソブチレン系シーリング材やテレケリック系シーリング材を使用されますと、一次封着材に不具合が生じる可能性があります。
- ④バックアップ材は、発泡ポリエチレンなどをご使用ください。
- ⑤セッティングブロックは下辺に2個使用してください。EPDM耐シリコンタイプ (EPDM-S 硬度90°) を推奨します。
- ⑥各種クリアランス・かかりしろは、日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS-17 (ガラス工事) の数値を参照してください。
参 照 P.98「板ガラスの納まり寸法標準」
- ⑦ガラス辺の全部または一部でもサッシにのみ込まれていない構法は、封着部の耐久性を低下させる原因となりますので避けてください。

合わせガラス・防犯ガラスの標準施工法

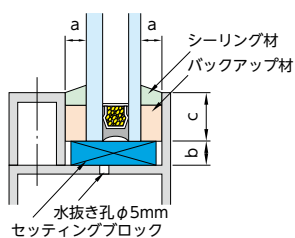
- ①シーリング材は、JIS A 5758に規定される良質のシリコン系シーリング材 (無酢酸タイプ) を推奨します。
- ②バックアップ材は、発泡ポリエチレンなどをご使用ください。
- ③セッティングブロックは下辺に2個使用してください。EPDM耐シリコンタイプ (EPDM-S 硬度90°) を推奨します。
- ④各種クリアランス・かかりしろは、日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS-17 (ガラス工事) の数値を参照してください。防犯ガラスのかかりしろは10ミリ以上としてください。

参 照 P.98「板ガラスの納まり寸法標準」

施工図

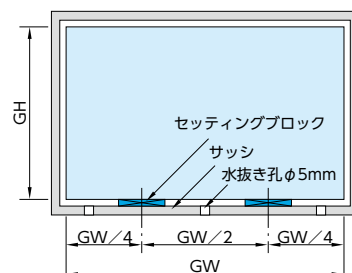


シーリング材によるカーテンウォール工法の場合

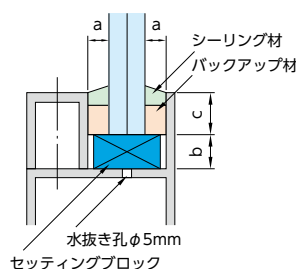


記号説明 GH: ガラスの高さ GW: ガラスの幅
a: 面クリアランス b: エッジクリアランス c: かかりしろ

施工図



シーリング材によるカーテンウォール工法の場合



記号説明 GH: ガラスの高さ GW: ガラスの幅
a: 面クリアランス b: エッジクリアランス c: かかりしろ

強化ガラス・倍強度ガラスの標準施工法

- ①シーリング材は、JIS A 5758に規定される良質のシリコン系シーリング材を推奨します。
- ②バックアップ材は、発泡ポリエチレンなどをご使用ください。
- ③セッティングブロックは下辺に2個使用してください。EPDM耐シリコンタイプ (EPDM-S 硬度90°) を推奨します。
- ④各種クリアランス・かかりしろは、日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS-17 (ガラス工事) の数値を参照してください。

参照 P.98「板ガラスの納まり寸法標準」

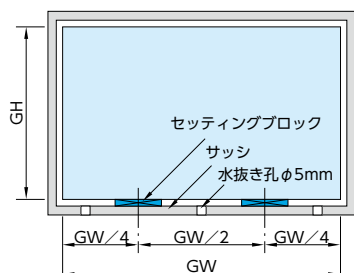
高性能熱線反射ガラスの標準施工法

- ①シーリング材は、JIS A 5758に規定される良質のシリコン系シーリング材 (無酢酸タイプ) を推奨します。
- ②バックアップ材は、発泡ポリエチレンなどをご使用ください。
- ③セッティングブロックは下辺に2個使用してください。EPDM耐シリコンタイプ (EPDM-S 硬度90°) を推奨します。
- ④各種クリアランス・かかりしろは、日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS-17 (ガラス工事) の数値を参照してください。

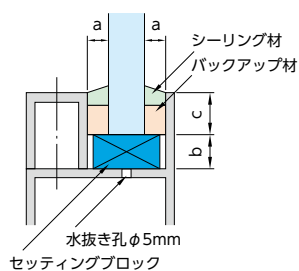
参照 P.98「板ガラスの納まり寸法標準」

- ⑤反射映像が問題となる場合にはP.93の「熱線反射ガラスの映像調整施工」をご参照ください。

施工図

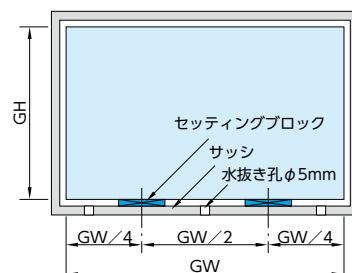


シーリング材によるカーテンウォール工法の場合

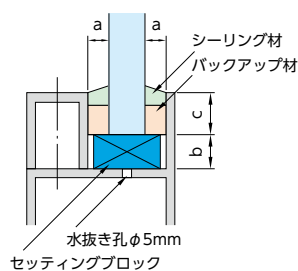


記号説明 GH: ガラスの高さ GW: ガラスの幅
a: 面クリアランス b: エッジクリアランス c: かかりしろ

施工図



シーリング材によるカーテンウォール工法の場合



記号説明 GH: ガラスの高さ GW: ガラスの幅
a: 面クリアランス b: エッジクリアランス c: かかりしろ

板ガラスの標準施工

熱線吸収板ガラスの標準施工法

- ①シーリング材は、JIS A 5758に規定される良質のシリコン系シーリング材(無酢酸タイプ)を推奨します。
- ②グレイジングチャンネル、ビードなどは、耐久性のすぐれたものをご使用ください。
- ③バックアップ材は、発泡ポリエチレンなどをご使用ください。
- ④セッティングブロックは下辺に2個使用してください。EPDM耐シリコンタイプ(EPDM-S 硬度90°)を推奨します。
- ⑤各種クリアランス・かかりしろは、日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS-17(ガラス工事)の数値を参照してください。

参照 P.98「板ガラスの納まり寸法標準」

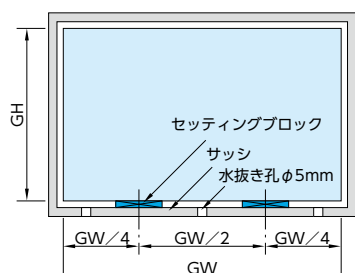
網入、線入板ガラスの標準施工法

- ①シーリング材は、JIS A 5758に規定される良質のシリコン系シーリング材(無酢酸タイプ)を推奨します。網入板ガラスを防火戸にご使用になる場合は、(社)カーテンウォール・防火開口部協会の認定を取得したシーリング材をご使用ください。
- ②サッシ溝幅は広く、また雨水や結露水などが浸入しても速やかに排水できる水抜き孔($\phi 5\text{mm}$ 以上)を3ヶ所設けてください。
- ③網入、線入ガラスの切断は、丁寧に行ってください。
- ④バックアップ材は、発泡ポリエチレンなどをご使用ください。
- ⑤セッティングブロックは下辺に2個使用してください。EPDM耐シリコンタイプ(EPDM-S 硬度90°)を推奨します。
- ⑥各種クリアランス・かかりしろは、日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS-17(ガラス工事)の数値を参照してください。

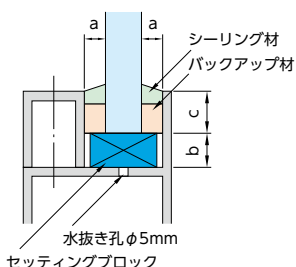
参照 P.98「板ガラスの納まり寸法標準」

- ⑦グレイジングチャンネル、ビードによる施工は、水密性能上好ましくありません。やむを得ず採用される場合は必ず水抜き孔を設け、ガラスは確かな防錆処理をお願いします。また、耐久性のすぐれたものをご使用ください。
- ⑧シーリング材による施工の場合でも、万一水密性が損なわれた場合を考え、端部は防錆処理を行うことをおすすめします。
- ⑨ジッパーガasket(構造ガasket)による施工は、ガラスとガasketの間に浸入した水分により、錆割れを誘発するため、網入、線入板ガラスの施工には適しません。

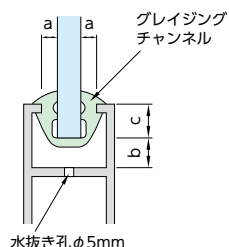
施工図



シーリング材によるカーテンウォール工法の場合

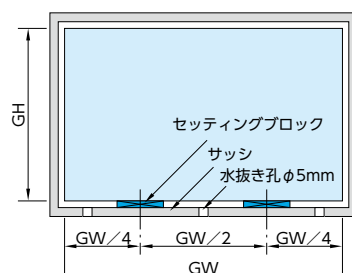


グレイジングチャンネル使用の一般サッシの場合

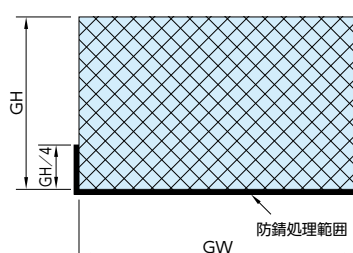


記号説明 GH: ガラスの高さ GW: ガラスの幅
a: 面クリアランス b: エッジクリアランス c: かかりしろ

施工図

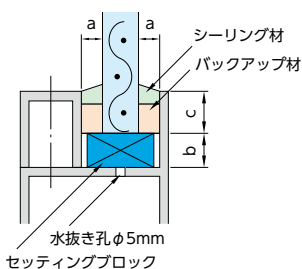


防錆処理

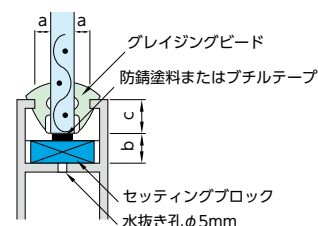


※トップライトなど水平状態で使用される場合は全周に防錆処理を行ってください。

シーリング材による工法の場合



グレイジングビード使用の場合



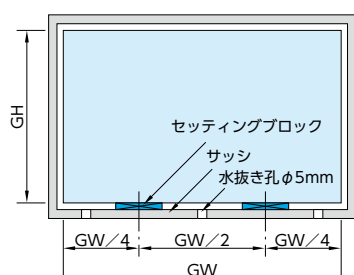
記号説明 GH: ガラスの高さ GW: ガラスの幅
a: 面クリアランス b: エッジクリアランス c: かかりしろ

フロート板ガラス、型板ガラス、高透過ガラスの標準施工法

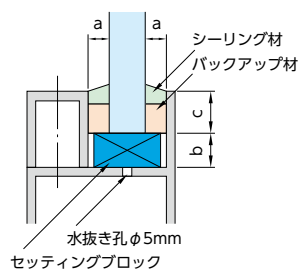
- ①シーリング材は、JIS A 5758に規定される良質のシリコン系シーリング材(無酢酸タイプ)を推奨します。
- ②グレイジングチャンネル、ビートなどは、耐久性のすぐれたものをご使用ください。
- ③バックアップ材は、発泡ポリエチレンなどをご使用ください。
- ④セッティングブロックは下辺に2個使用してください。EPDM耐シリコンタイプ(EPDM-S 硬度90°)を推奨します。
- ⑤各種クリアランス・かかりしろは、日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS-17(ガラス工事)の数値を参照してください。

参 照 ▶ P.98「板ガラスの納まり寸法標準」

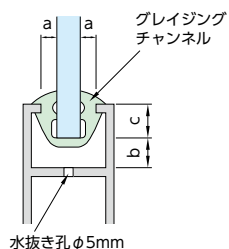
施工図



シーリング材によるカーテンウォール工法の場合



グレイジングチャンネル使用の一般サッシの場合



記号説明 GH: ガラスの高さ GW: ガラスの幅
a: 面クリアランス b: エッジクリアランス c: かかりしろ